

2年までは両者間には大差はみられないが、3年以上では外科的治療群が良好な結果が示された。死亡例は19例中7例で（放射線単独治療群：3例，外科的治療群：4例），その内の6例は遠隔転移などによる癌死と考えられた。

### 61. 原発性肺癌に対するMFC療法

長崎大学第二内科 雨森博政  
籠手田恒敏，奥野一裕  
吉村 康，中野正心，原 耕平

我々は，末期の原発性肺癌10例に対してMFC療法を施行した。病理組織分類は扁平上皮癌1例，腺癌8例，小細胞性未分化癌1例であった。X線による効果判定は陰影縮小率が50%以上のものを著効，50%未満のものを有効，不変または悪化したものを無効とすると，著効例はなく，有効4例，無効6例であった。副作用は食欲不振1例，悪心・嘔吐2例，倦怠感1例，白血球減少4例，栓球減少3例であった。

## 関 西 支 部

### 第21回

#### 肺癌学会関西支部会

昭和49年8月3日  
大阪大林ビル29階第1会議室  
当番幹事 瀬良好澄  
(国立病養所近畿中央病院)

#### 1. 血痰を主訴とした早期肺真菌症の1例

ヴォーリス記念病院呼吸器科  
北野司久，山田久和  
大井元晴  
京都大胸部研臨床肺生理

折田雄一  
国立京都病院病理 浅本 仁  
肺真菌症は比較的稀な疾患であるが，血痰，胸痛等の症状を訴えて入院し，肺癌の疑いで外科治療を受け，術後の摘出肺の病理組織学的な検索により確定診断のついた肺真菌症の1例を文献の考察も加えて報告する。

症例は62才の男子。血痰を主訴として入院。安静加療にもかかわらず血痰が続いたので，肺癌の疑いで右肺上葉切除術を施行し，その摘出肺の病理検査で初めてカンジダ症と確定診断がついた。しかし術後4ヵ月に同側の自然気胸（胸水より真菌を証明）を併発して再入院してきた。一方，菌の同定検査は喀痰及び胸水からのものを継代培養しながら検討中であるが，重複感染肺真菌症と思われる。

#### 2. 肺癌に合併した気管支乳頭腫の1例

関西医大胸部外科  
藤尾 彰，斉藤幸人，  
中路忠司，小谷澄夫，

野々山明，香川輝正  
日生病院第2検査部

板野龍光

55才男。肺癌の診断に際し偶然発見された乳頭腫は右中気管支幹に存在し，小豆大，球形。表面は細乳頭状を呈し，細く短い茎で気管支壁に連なっていた。胸部X線平面像では肺癌を思わせる陰影以外に全く異常所見がなく，内視鏡検査で初めて発見された。検鏡上，異型性に乏しい重層扁平上皮と円柱上皮の乳頭状増殖からなり，間質は僅かであった。なお肺癌は右S<sup>2</sup>原発の多形細胞癌で，肺門リンパ節に転移していた。

#### 3. 肺の孤立性陰影と胸水貯溜を呈した肺原発と考えられる悪性黒色腫の1例

県立尼崎病院内科  
野村繁雄，巽 憲一，  
藤岡晨宏  
外科 田中歳郎，土屋和之，  
佐藤博正  
病理 淡河秀光

われわれは肺の孤立性陰影と胸水貯溜を伴った悪性黒色腫の1例を経験したので報告する。患者は70才の男子で左胸痛を主訴とし，胸部X像で左S<sup>6</sup>の腫瘤陰影と胸水がみられ，胸水，喀痰，経気管支擦過細胞診及び気管支洗滌液から悪性黒色腫と診断された。臨床的に肺以外に原発巣と思われる所見はなく，又，剖検の結果も同様であった。従って気管支原発の悪性黒色腫の可能性が大であるように思われた。

追加：立花暉夫

(府立大阪病院内科)

転移性肺，胸膜悪性黒色腫。  
64才男子。右中指節部の悪性黒色腫皮膚病変摘除9年后，胸部X P上，少数の両肺野小転移巣，